

【会情報】

【会員企業ご訪問 : Vol153】

## ミヤコテック株式会社 (京滋支部)

今回は、京都市伏見区にあるミヤコテック株式会社の代表取締役社長 市川 克一様を訪ねました。

### 事業の概要

当社は 1961 年に創業者の村田治夫が、樹脂切削加工の都電器工業株式会社を設立したのが始まりです。社名に「都」を入れたのは、京都は都である事からと聞いています。その後、1983年に射出成形事業に進出、1981年にはインサート成形の北条産業を吸収合併しました。1991年に創業 30 周年事業の一環としてミヤコテック株式会社に社名変更を行いました。

1999 年に私が社長に就任してから、「第二創業」として事業の新たな柱の形成に努め、現在ではモールド事業(射出成形・金型製作)、環境対応型事業(発泡体の製造)、JES 事業(治具・装置の設計・製作)を 3 つの柱として形成するに至りました。

#### ◎モールド事業

本社工場では熱硬化性成形機 8 台、熱可塑性成形機 5 台を設置し、熱硬化性樹脂と熱可塑性樹脂 50:50 の割合で生産しています。社内では、どちらの樹脂でも以前より得意としているインサート成形を重点的に取り扱っています。特に熱硬化性樹脂のインサート成形については、独自技術で 0.01mm の精度での成形を可能にしました。

#### ◎環境対応型発泡体事業

八幡工場で古紙やでんぷんを用いて、環境に優しい発泡体を製造しています。水蒸気の発泡技術を用いた押出成形を行っています。主に緩衝材に使われますが、従業員の発想からハート型の発泡体を作ったところ、バレンタインやクリスマスの飾りつけなどにも使われ、人気となっています。

本社住所	京都市伏見区下鳥羽但馬町 169	
電話 F A X	075-602-1331 075-612-3711	
資本金	2,400 万円	
創業	昭和 29 年 (昭和 36 年株式会社設立)	
成形機	29 台	熱硬化性:8 台 熱可塑性:21 台 (主要協力工場設備含む)
従業員数	58 名	



各認定賞を背にされる代表取締役社長 市川 克一氏

## ◎JES 事業

JES とは、治具 (Jig) ・エレクトロニクス (Electronics) ・装置 (System) の略称です。

JES 事業は、各種装置設計や技術コンサルタントを行っています。技術コンサルタントでは治具や装置の設計・製作技術を活かし、例えば生産ライン同士をつなぐ際の困りごとを解決する為の提案を行っていますので、生産ラインに改善項目がある際にはご相談ください。

また、電機部品のカシメを打つ機械を独自技術で製作しました。

これら三本柱の売上構成比は、モールド事業が 70%、環境対応型事業が 20%、JES 事業が 10%となっており、第二創業として取り組み始めた射出成形以外の柱も徐々に伸びています。



## 事業のスタンス

社内からの意見や提案を大事にしており、先に述べたハート型の発泡体のように商品化に至る事例もあります。また、何事にも出来ない理由や要因に縛られず取り組むように伝えています。イチかゼロという発想ではなく、取り組む事で良い所を見つけ、それを活かすようにしています。

JES 事業では従業員の提案力、営業力が問われるので、社員力の表れになると思います。

また、企業方針として第三者機関による認定の取得を積極的に行ってきました。取得するに至ったきっかけは、対外的な PR の為でした。2003 年の京都市から認定された企業価値創出支援制度「オスカー賞」をかわきりに、2006 年には京都府下で 4 番目となる経済産業省の「新連携」を受賞、京都府からは「元気印 中小企業」や中小企業「知恵の経営」実践モデル企業にも認定されました。認定を取得する事で、会社の露出が増え、信頼を得る事が出来ているのではと考えています。

## 第二工場新築、モールド事業集約

2019年に本社向かいの土地に第二工場を新築しました。1階は熱可塑性射出成形機のラインとして活用。現在40tから180tまでの射出成形機を6台設置、今後さらに2台設置する予定です。2階はJES事業で独自開発した装置の研究・開発室ですが、少量多品種の生産も行っています。また、取引先に生産工程を見ていただくショールームとしても活用しています。

また、第二工場新築を機に京田辺の金型工場も本社近隣に移転しました。本社周辺にモールド事業とJES事業を集約する事で、作業効率が向上しました。



第二工場 外観

## 現在の課題、今後の展望

従業員の平均年齢は40代です。新卒採用や中途採用を行う事で、次世代を担う人材も増えてきておりますが、技術継承が課題です。これまで社員教育には社外研修を活用してきましたが、現場にこそ学べる機会があると考え、現在はOJTを主にしています。また、月に一度、全社を挙げて教育改善活動を約20年近く行っています。

2021年に当社は創業60周年を迎えます。60周年を迎えるにあたり、現在の3つの柱の事業をさらに2つ増やし、5つの事業にしたいと考えています。昨今の競争社会を勝ち抜く為には、いかに他社と差別化出来る技術や製品を持つかにあると考えています。



本社工場内の様子

### ※ 会社を拝見して ※

事業の3つの柱が順調に成長されており、さらに新たな柱となる事業の展開を計画されているとあり、未来を見据えた更なる躍進に取り組まれていると感じました。

また、昨今話題のIoTについては若手従業員に任せるなど、人を育てる為にはまず仕事を任せる事から始め、失敗を恐れず挑戦させるなど従業員の自主性や積極性を大事にされていました。

技術開発や人材育成など既成概念に囚われず積極的に取り組む姿勢が、当社の強みではないかと感じました。

◎ありがとうございました

取材：事務局 木原、吉田

※本記事記載の情報については2019年8月21日現在のものとなります。